

多摩川をコントロールする2つの堰

— 神奈川県川崎市 —

東京農業大学地域環境科学部 岡澤 宏

多摩川には、小田急小田原線の登戸駅をはさんで、上流に二ヶ領上河原堰（表紙写真）と下流に二ヶ領宿河原堰（写真-1）が存在している。この2つの堰を比べると、下流の二ヶ領宿河原堰がどうしても話題にのぼる。1974年9月に台風16号による洪水の発生によって、多摩川は氾濫した。堰の左岸ではこの氾濫によって堤防が決壊し、民家19棟が濁流によって甚大な被害を受けた。堤防が決壊した左岸の付近には「多摩川決壊の碑」が建立されており、水害による被害の恐ろしさが今も伝えられている（写真-2）。

二ヶ領上河原堰は、神奈川県下で最も古い二ヶ領用水に水を送り込むために作られた取水堰である。二ヶ領用水は徳川家康の名を受けた用水奉行・小泉次太夫によって開削され、1611年に完成した。その当時は中野島取水口とよばれ、二ヶ領用水に水を送り込む重要な水利施設としての役割を担っていた。取水堰によってこのあたりは豊かな水田地帯となり、江戸の食糧を支える重要な地域となった。その後も水田開発によって用水量のさらなる確保が課題となり、1629年には二ヶ領上河原堰から3.5 kmほど下流に二ヶ領宿河原堰が作られ、多摩川から二ヶ領用水へ水を取水するための堰が2つ存在するようになった。全盛期には灌漑面積が2,400町歩にも達した。

1970年代に入る頃には、この地域ものどかな田園地帯から都心のベッドタウンとして変貌をとげはじめた。そして、二ヶ領用水の役目も農業用水路から都市河川へと役割を変えていくこととなる。

過去をたどると、1966年に二ヶ領上河原堰も台風によって一部が損傷を受ける被害を受けており、その後の改修工事によって1971年に現在の堰堤の基礎が完成している。1971年当時は固定堰と洪水吐ゲート3門に魚道が設置され、固定堰と洪水吐の間には流量調整ゲートが設けられていた。それから2016年に改修工事が行われ、固定堰の高さを低くしたり、起伏式のゲートを設置することで洪水リスクを軽減できる施設に生まれ変わっている。また、二ヶ領用水でも河川改修が行われており、草堰（写真-3）や魚巢ブロックなどの生物の生息空間に配慮したさまざまな施設を見ることができる。



写真-1 二ヶ領宿河原堰



写真-2 多摩川決壊の碑



写真-3 二ヶ領用水と草堰

さらに、2つの取水堰から取水された水は久地円筒分水にまで流れ着き、そこから4つの地域へと分水される。この円筒分水が完成したのは1941年のことであり平賀栄治氏（1892～1982年）によって完成した。渇水期になるとこの地でも水争いが絶えなかったが、円筒分水によって農民が取水の状況を見ることができ、公平性を確かめられるようになったため、水争いが解決された。この功績を称えられて久地円筒分水には平賀氏の顕彰碑がおかれている（写真-4）。平賀氏は甲府に生まれ、東京農業大学農業土木科を卒業し、宮内省皇室林野管理局、農商務省などを経て1940年に多摩川右岸農業水利改良事務所に就任し、多摩川の上河原堰や宿河原堰の改修、平瀬川と三沢川の排水改修、久地円筒分水の建設に携わった。川崎のまちを支えた「水恩の人」とよばれている。高度経済成長期において農地から宅地へと急速に変貌した多摩川右岸エリアで農業土木の重要性を知ることのできる多くの水利施設を建設、維持管理に尽力を注がれた人物であり、私の所属する東京農業大学のOBでもある。平賀氏に敬意を表するとともに、農地の少ない大学周辺においても農業土木の重要性を学生に知ってもらうため、今後も頻繁にこの地を訪れようと思う。



写真-4 久地円筒分水と顕彰碑

参 考 文 献

- 1) 国土交通省関東地方整備局：二ヶ領上河原堰, http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000099123.pdf

水土を拓く ―知の連環―

企画・編集 農業農村工学会「水土を拓く」編集委員会
発行 農山漁村文化協会

学会は「農業土木学会」から「農業農村工学会」への名称変更に先立ち、ビジョン「新たな〈水土の知〉の定礎に向けて」を策定しました。本書はこの〈水土の知〉を古代国家成立（飛鳥時代）から近代までの歴史的歩みを軸に、各地の農業の展開と国土の開発について、地域固有の水・土・里を「見きわめる」「使い尽くす」「見定める」「大事にする」「見試す」「見通す」「仲良くする」という7つの視点から整理し、これからの農業農村工学のあり方を探るものです。学会誌創立80周年記念出版事業として刊行されました。

体 裁：B5判 360ページ 上製
定 価：4,628円（税込）
会員特価：4,114円（税込）

申込先：公益社団法人 農業農村工学会
FAX：03-3435-8494 E-mail：suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ：http://www.jsidre.or.jp/